

各 位

会 社 名 株式会社 日阪製作所
代 表 者 名 代表取締役社長 宇佐美 俊哉
社長執行役員
コード番号 6247
上 場 取 引 所 東証プライム
問 合 せ 先 取締役上席執行役員 波多野 浩史
管理、経営戦略、IR 担当
電 話 番 号 06-6363-0015

通期個別業績の前事業年度実績値と当事業年度実績値との差異に関するお知らせ

当社は個別業績予想を開示していませんが、個別決算における当事業年度の実績値が、前事業年度の実績値から一定以上変動いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2026年3月期通期個別業績と前事業年度実績値との差異（2025年4月1日～2026年3月31日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益(円)
2025年3月期 実績値(A)	31,104	1,683	2,381	3,159	113.41
2026年3月期 実績値(B)	37,300	2,472	3,056	3,052	115.24
増減額(b-A)	6,196	789	674	▲106	
増減率(%)	19.9	46.9	28.3	▲3.4	

2. 差異の理由

当事業年度における世界経済は、金利・為替の変動や通商政策、地政学リスクの影響で不安定な状況が一層深まりました。国内経済は、企業収益は底堅いものの、労働市場やコスト上昇により先行き不透明な状況が続いています。

このような環境のもと、当社は中長期的成長を見据え事業基盤の強化に取り組み、生駒事業所の安定稼働や鴻池事業所の再構築により生産能力を増強しました。また、省エネ・省人化ニーズに対応し、エネルギー、食品、医薬分野での販売拡大とメンテナンス需要の取り込みを推進した結果、売上高は、熱交換器事業及びバルブ事業が堅調に推移したことに加え、プロセスエンジニアリング事業において複数の大口案件を納入したことにより、前年度に比べ大幅な増収となり、過去最高を記録いたしました。

利益面では、減価償却費や人件費などの固定費が増加したものの、プロセスエンジニアリング事業の売上増加などにより、営業利益は大幅な増加となりました。経常利益も営業利益と同様に増加となりましたが、当期純利益については前年度に引き続き特別利益に政策保有株式の売却益などを計上したものの、特別損失に工場再構築費用などを計上したことにより、減少となりました。

以上